

2014年度第1四半期決算説明資料

2014年7月30日

川崎重工業株式会社

目次

I. 2014年度第1四半期連結決算の概要

◇ 第1四半期決算実績 サマリー	3
◇ 第1四半期決算実績 セグメント別	4
◇ 前年同期比損益計算書の概要	5
◇ セグメント別決算実績	
船舶海洋	6
車両	7
航空宇宙	8
ガスタービン・機械	9
プラント・環境	10
モーターサイクル&エンジン	11
精密機械	12
◇ 貸借対照表の概要	13
◇ キャッシュ・フローの概要	14

II. 2014年度業績見通し

◇ 第2四半期(累計)業績見通し修正の概要	15
◇ 連結受注高・売上高・利益見通し	16
◇ セグメント別通期業績見通し	17
◇ 研究開発費・設備投資・期末従業員数	18

III. セグメント別税前ROIC等の推移

◇ セグメント別税前ROIC等の推移	19
＜参考資料 1＞	
ヒストリカル・データ	20
＜参考資料 2＞	
Kawasaki ROIC経営に関する補足説明	21

第1四半期決算実績 サマリー

(億円)

	2013年度 1Q	2014年度 1Q	増 減
受 注 高	2,831	3,338	+507
売 上 高	2,825	3,041	+216
営業利益	167	109	▲58
経常利益	94	66	▲27
四半期純利益	44	54	+9

前年同期比

【受注高】

船舶海洋等で減少したものの、車両やプラント・環境等で増加した結果、全体では増加となった

【売上高】

船舶海洋やモーターサイクル&エンジン等で減収となったものの、航空宇宙やガスタービン・機械等で増収となったことにより、全体では増収となった

【利益】

・営業利益は受注工事損失引当金の戻入の影響が大きかった前年同期に比べ減益、経常利益は為替差損の減少等はあったものの、営業利益の減少により減益となった

・四半期純利益は税金費用の減少により増益となった

売上加重 平均レート	ドル (¥/\$)	97.46	102.17
	ユーロ (¥/EUR)	125.95	140.44

(参考)1Q決算実績におけるNET外貨売上高 (億外貨)

ドル	ユーロ
5.0	0.7

第1四半期決算実績 セグメント別

(億円)

	受注高			売上高			営業利益		
	2013年度 1Q	2014年度 1Q	増減	2013年度 1Q	2014年度 1Q	増減	2013年度 1Q	2014年度 1Q	増減
船舶海洋	271	145	▲125	210	183	▲27	33	▲4	▲37
車 両	350	674	+323	305	304	▲0	19	0	▲18
航空宇宙	415	419	+4	556	654	+97	75	62	▲12
ガスタービン・機械	356	432	+75	364	427	+63	8	20	+12
プラント・環境	166	352	+186	167	210	+43	▲6	▲4	+1
モーターサイクル&エンジン	674	648	▲26	674	648	▲26	24	2	▲22
精密機械	298	317	+18	251	306	+55	15	28	+12
そ の 他	296	347	+50	294	305	+10	3	5	+2
調 整 額※	-	-	-	-	-	-	▲7	▲3	+4
合 計	2,831	3,338	+507	2,825	3,041	+216	167	109	▲58

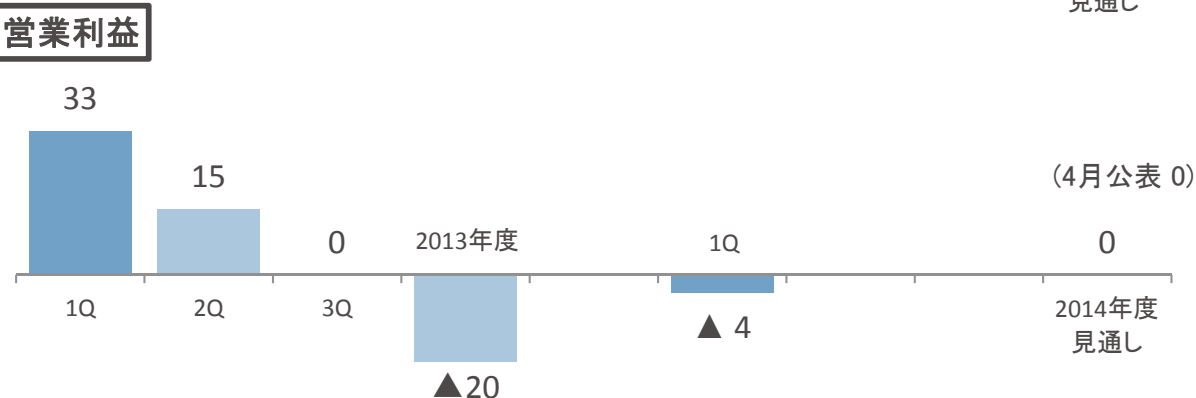
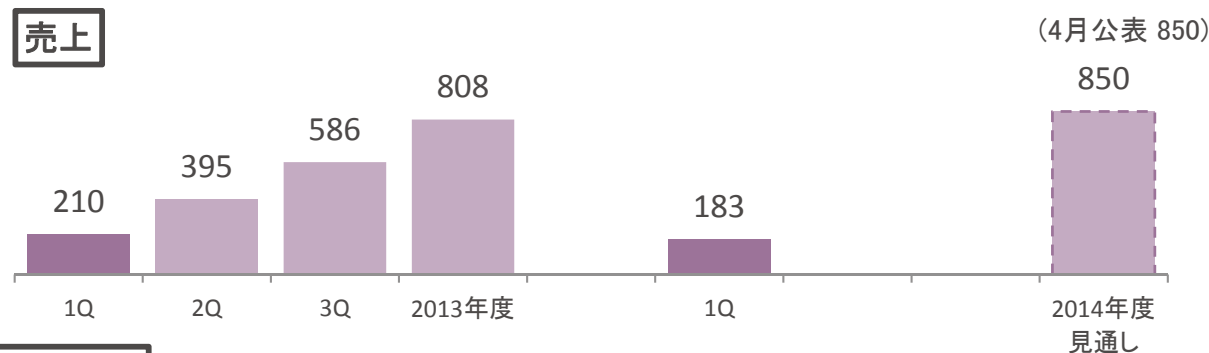
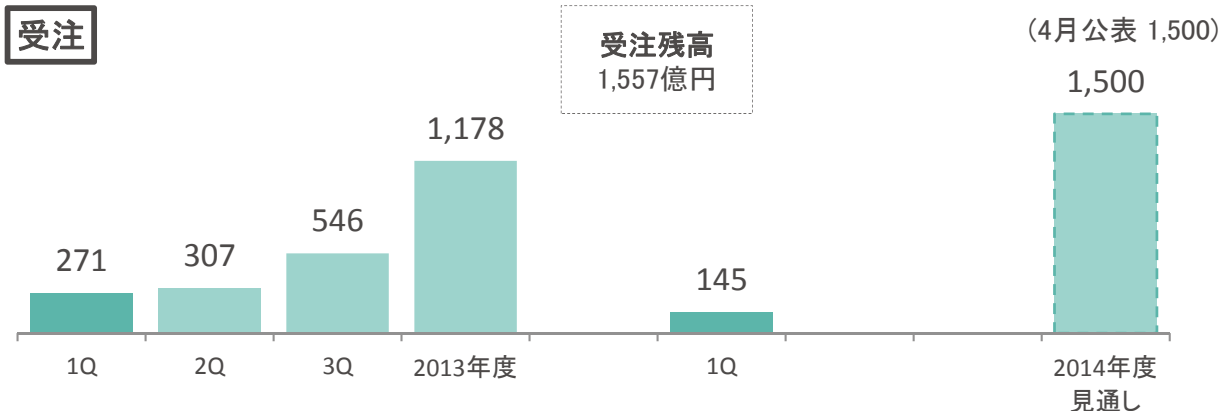
※ 「調整額」には、本社部門で発生する費用で社内管理上各部門への配賦を行わない費用等を含む

前年同期比損益計算書の概要

【営業損益】	前年同期比	▲	58 億円	(2013.1Q 167 億円	⇒	2014.1Q 109 億円)
・売上高		+	216 億円	(2,825 億円	⇒	3,041 億円)
・売上原価		+	263 億円	(2,268 億円	⇒	2,531 億円)
・販売費および一般管理費		+	11 億円	(389 億円	⇒	400 億円)
うち給料および手当		+	5 億円	(108 億円	⇒	113 億円)
うち研究開発費		▲	0 億円	(80 億円	⇒	80 億円)
【営業外損益】	前年同期比	+	31 億円	(2013.1Q ▲ 73 億円	⇒	2014.1Q ▲ 42 億円)
・金融収支 (受取配当金を含む)		▲	1 億円	(▲ 5 億円	⇒	▲ 7 億円)
・持分法による投資利益		+	9 億円	(15 億円	⇒	24 億円)
・為替差損益		+	21 億円	(▲ 79 億円	⇒	▲ 58 億円)
・その他		+	2 億円	(▲ 3 億円	⇒	▲ 0 億円)
【特別損益】	前年同期比		0 億円	(2013.1Q 0 億円	⇒	2014.1Q 0 億円)

船舶海洋

主要製品： LNG船、LPG船、オフショア船、VLCC、ばら積み運搬船、潜水艦 (億円/各期の数値は累計)



当第1四半期実績

(前年同期比)

受注 LPG船1隻を受注したものの、LNG船等2隻を受注した前年同期に比べ減少

売上 LNG船の建造量は増加したものの、ばら積み船等の建造量が減少したことにより減収

営業利益 減収等により、受注工事損失引当金の戻入等があった前年同期に比べ損益悪化

2014年度見通し

(4月公表比)

受注・売上・営業利益
期初から大きな変動はなく、見通しを据え置き

<新造船の受注・売上隻数> (隻)

	受注(1Q)		売上(1Q)	
	2013年度	2014年度	2013年度	2014年度
LNG船	1		2 (2)	3 (3)
小型LNG船			1 (1)	
LPG船		1	2 (2)	1 (0)
オフショア船				
ばら積み運搬船	1		6 (4)	3 (2)
潜水艦			1 (1)	2 (2)
合計	2	1	12 (10)	9 (7)

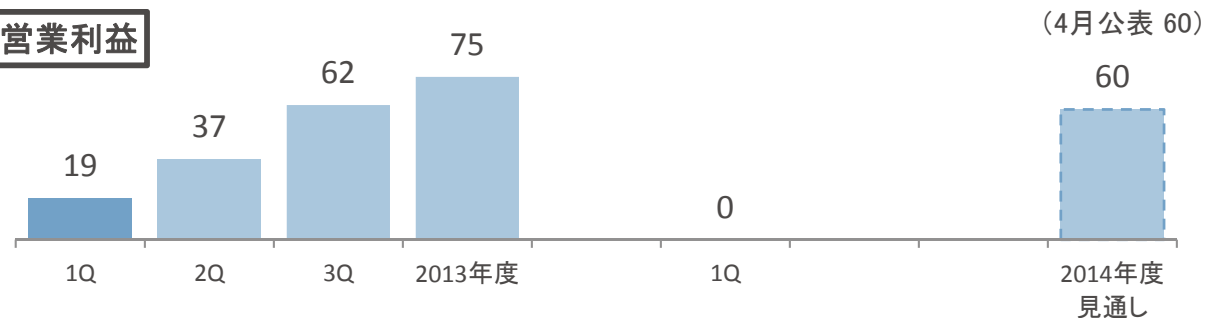
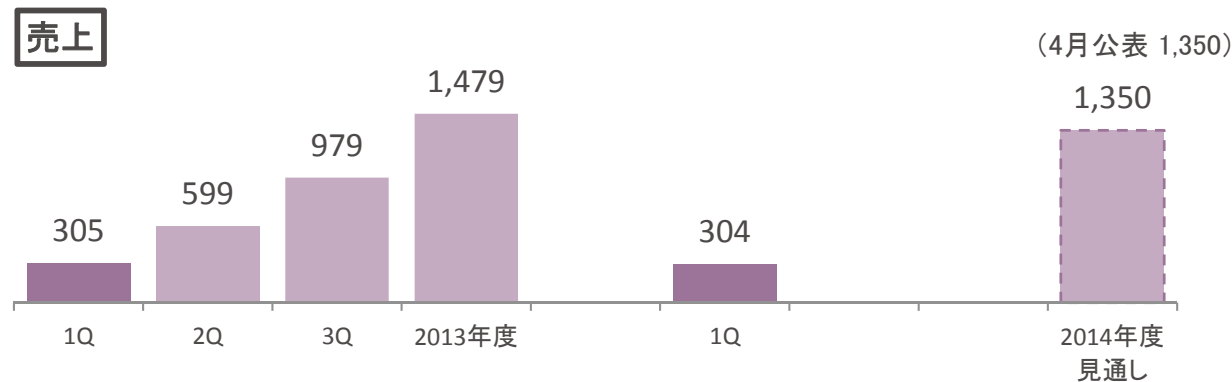
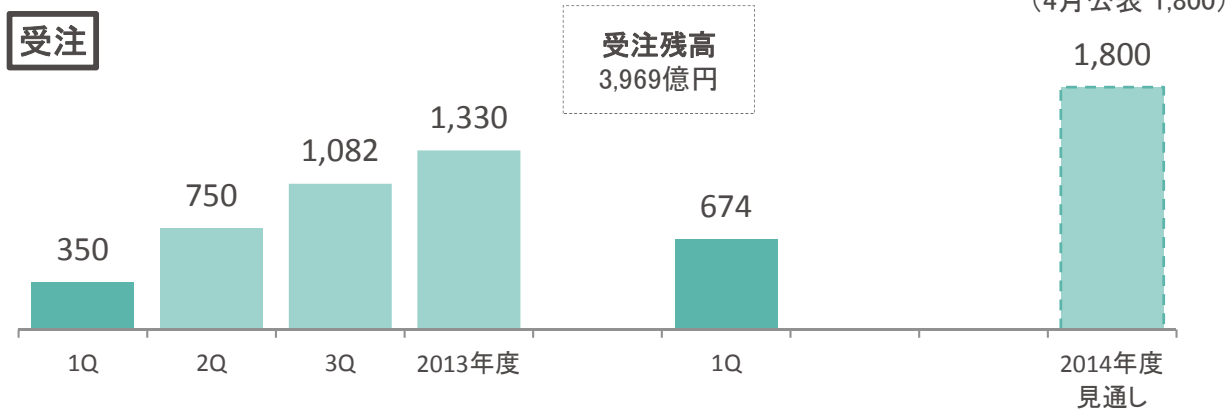
注) 括弧内は進行基準売上(内数)

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度※
税前ROIC	17.3%	3.4%	0.2%	10.0%

※ 2015年度目標は2013年4月25日公表「中計2013」数量目標(為替前提: 95円/\$)

車 両

主要製品： 各種電車(新幹線含む)、機関車、客車、ギガセル(二次電池) (億円/各期の数値は累計)



当第1四半期実績

(前年同期比)

受注 シンガポールLand Transport Authority新線向け地下鉄電車等の受注により増加

売上 海外向け売上が引き続き高い水準を維持したこと等により前年同期並みとなった

営業利益 利益率の低下等により減益

2014年度見通し

(4月公表比)

受注・売上・営業利益

期初から大きな変動はなく、見通しを据え置き

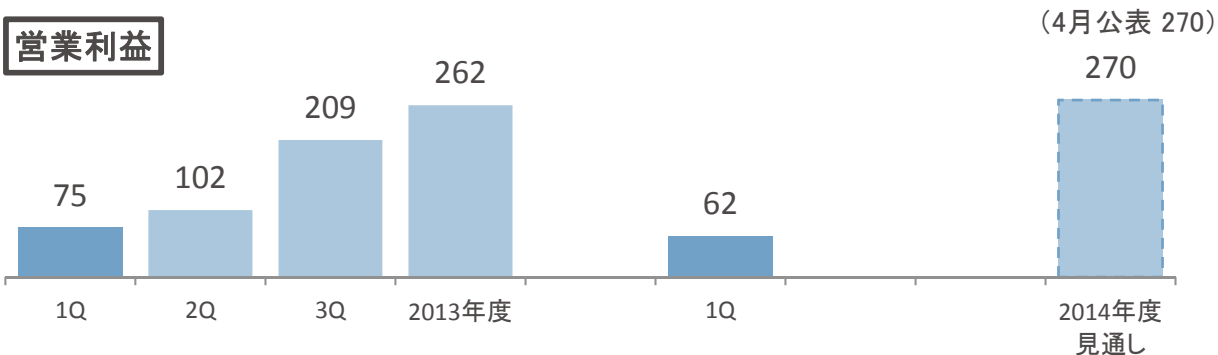
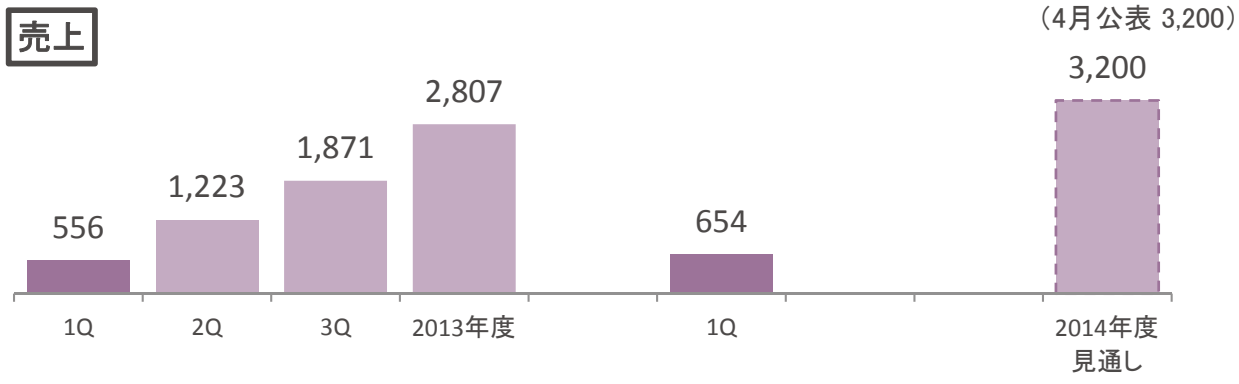
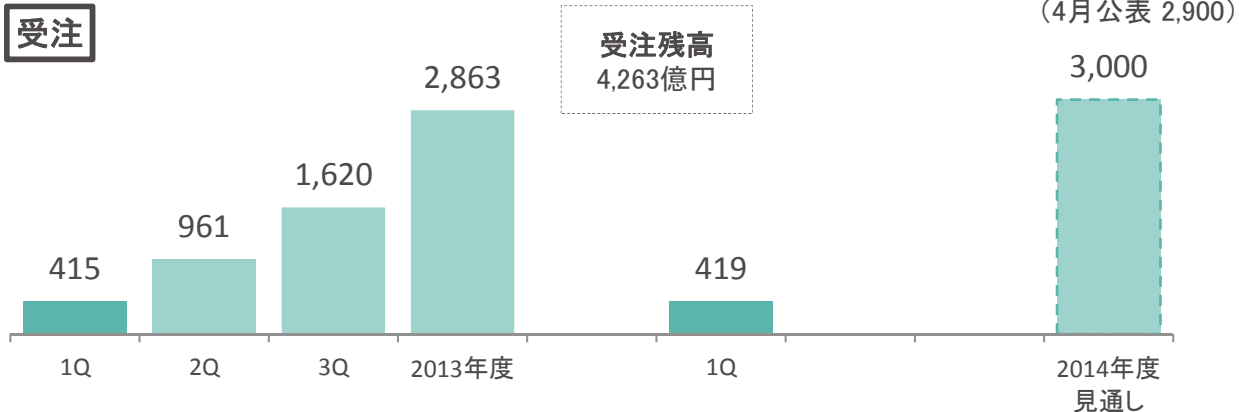
	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度※
税前ROIC	4.6%	10.2%	7.9%	15.3%

※ 2015年度目標は2013年4月25日公表「中計2013」数量目標(為替前提:95円/\$)

航空宇宙

主要製品： 防衛航空機、民需航空機分担製造品、民間向けヘリコプター、
誘導機器・宇宙関連機器

(億円/各期の数値は累計)



当第1四半期実績

(前年同期比)

- 受注** 防衛省向けの受注が減少したものの、ボーイング社向け787分担製造品の増加により増加
- 売上** 防衛省向け売上が前年同期並みを維持したことに加え、ボーイング社向け787分担製造品の増加等により増収
- 営業利益** 増収となったものの、受注工事損失引当金の戻入があった前年同期に比べ減益

2014年度見通し

(4月公表比)

- 受注** 防衛省向け案件等の増加により見通しを引き上げ
- 売上・営業利益** 期初から大きな変動はなく、見通しを据え置き

<民需分担製造品の売上機数> (機)

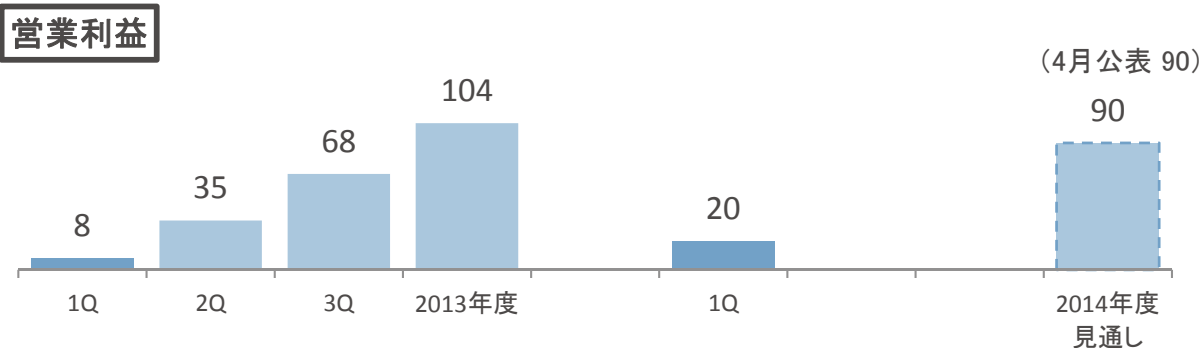
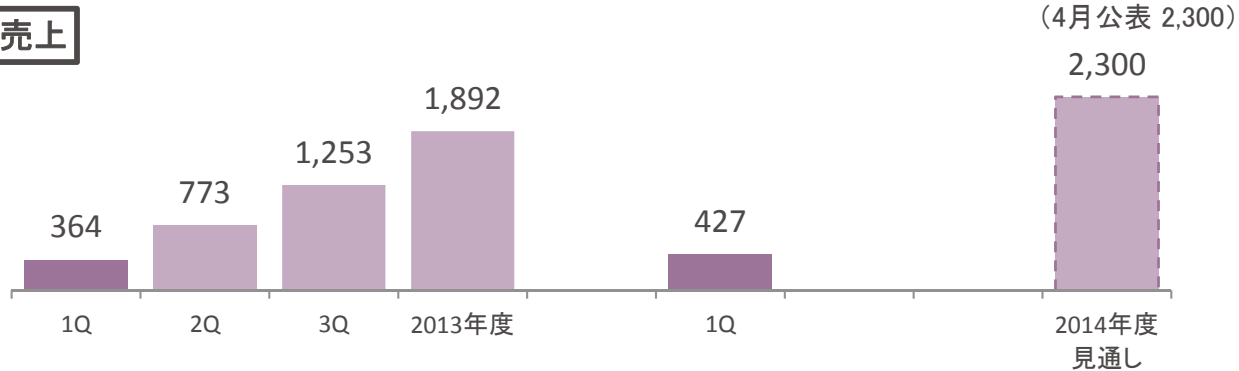
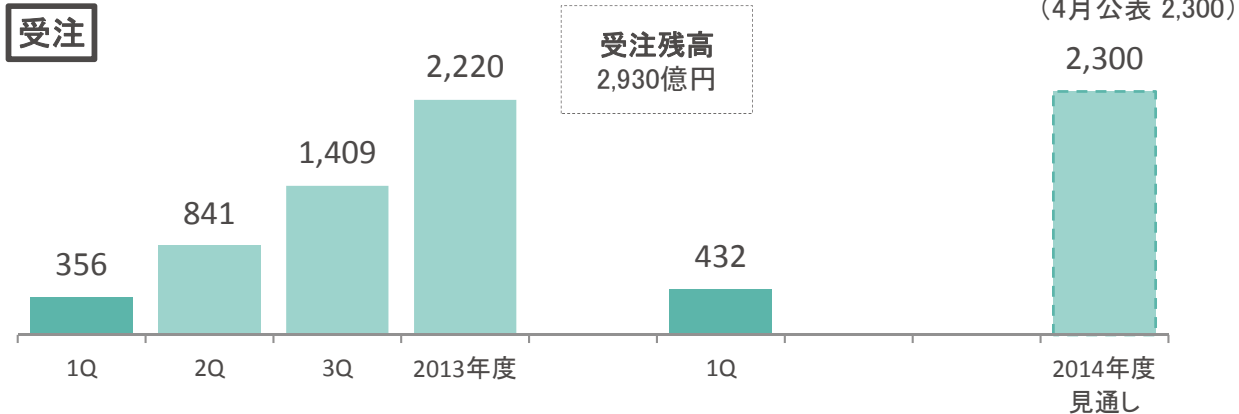
	2013年度1Q	2014年度1Q
Boeing 777	26	27
Boeing 767	5	4
Boeing 787	13	31
Embraer170/175	8	21
Embraer190/195	11	7

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度※
税前ROIC	15.9%	19.6%	17.7%	12.7%

※ 2015年度目標は2013年4月25日公表「中計2013」数量目標(為替前提:95円/\$)

ガスタービン・機械

主要製品： 航空機用エンジン、産業用ガスタービン・コージェネレーション、
ガスタービン、ディーゼル機関、陸用・船用タービン、空力・水力機械 (億円/各期の数値は累計)



当第1四半期実績

(前年同期比)

受注 航空エンジン分担製造品等の増加により増加

売上 航空エンジン分担製造品や水力機械等の増加により増収

営業利益 増収等により増益

2014年度見通し

(4月公表比)

受注・売上・営業利益

期初から大きな変動はなく、見通しを据え置き

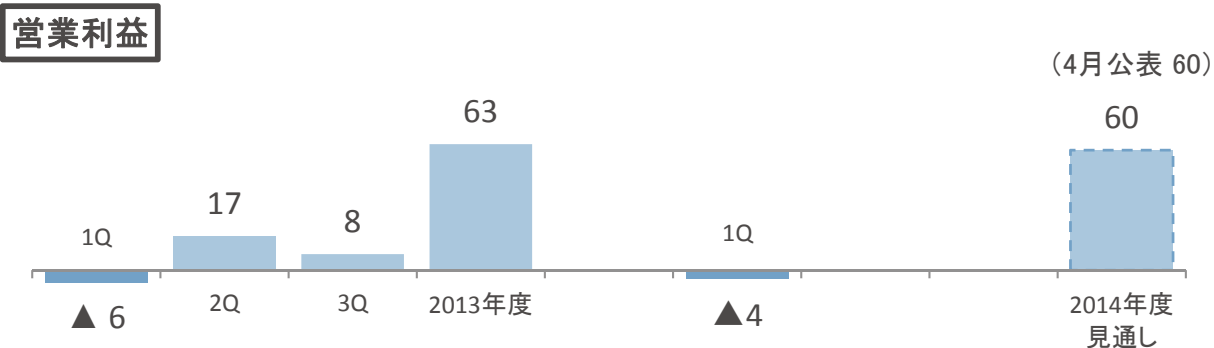
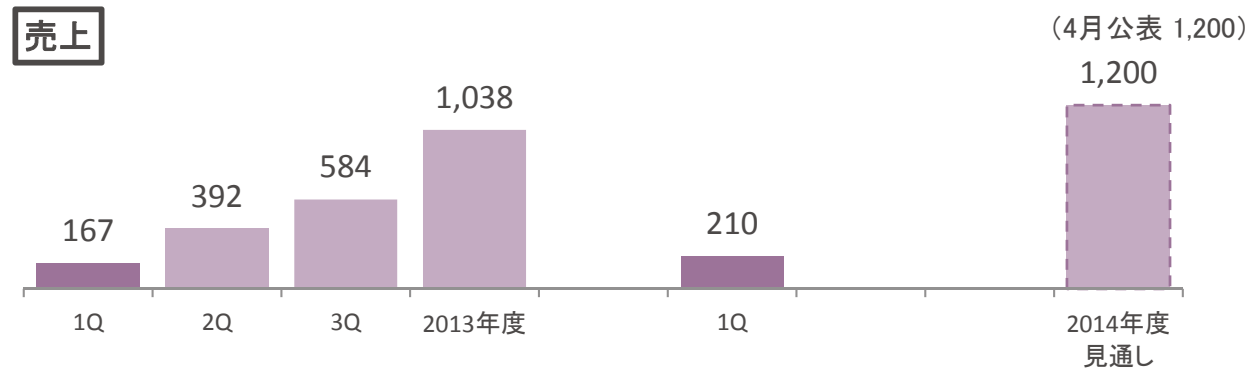
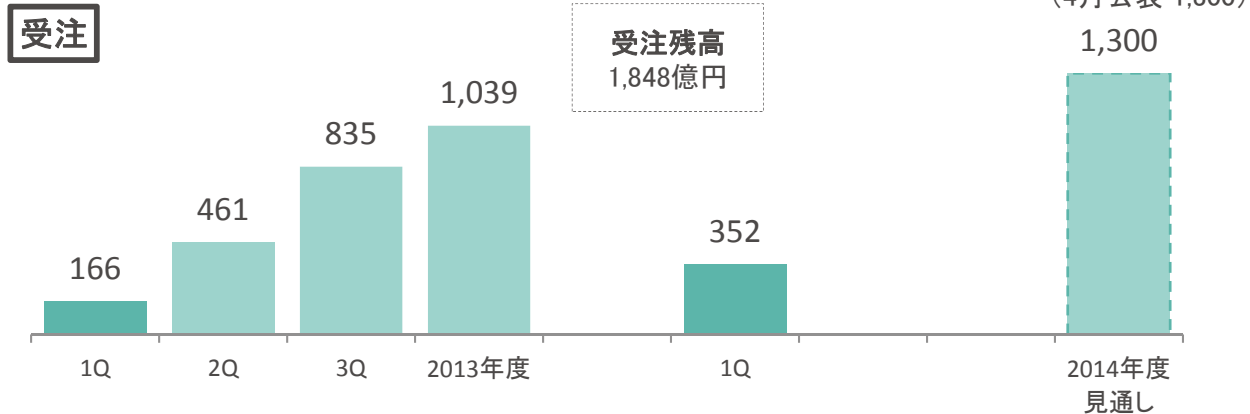
	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度※
税前ROIC	5.3%	4.6%	5.1%	7.5%

※ 2015年度目標は2013年4月25日公表「中計2013」数量目標(為替前提: 95円/\$)

プラント・環境

主要製品： 産業プラント(セメント、肥料等)、発電プラント、LNGタンク、
ごみ焼却プラント、トンネル掘削機、破碎機

(億円/各期の数値は累計)



当第1四半期実績

(前年同期比)

- 受注** 土木機械や環境装置案件の増加により増加
- 売上** LNG貯槽案件や環境装置案件の増加等により増収
- 営業利益** 増収となったものの、前年同期並みの営業損失

2014年度見通し

(4月公表比)

受注・売上・営業利益
期初から大きな変動はなく、見通しを据え置き

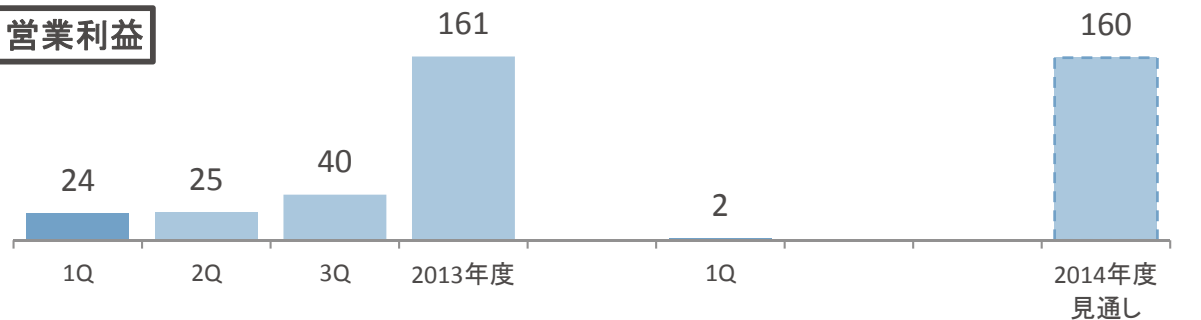
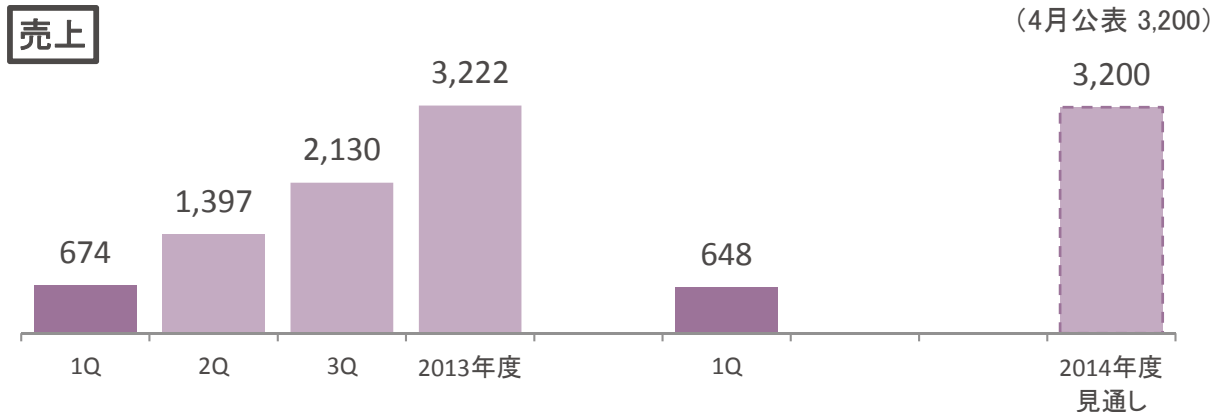
	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度※
税前ROIC	21.2%	14.9%	13.5%	15.0%

※ 2015年度目標は2013年4月25日公表「中計2013」数量目標(為替前提:95円/\$)

モーターサイクル&エンジン

主要製品： 二輪車、四輪バギー車(ATV)、多用途四輪車、
パーソナルウォータークラフト、汎用エンジン

(億円/各期の数値は累計)



<コンシューマー向け製品 地域別売上(卸売)台数・金額> (千台、億円)

	2013年度				2014年度			
	1Q		通期		1Q		通期見通し	
	台数	金額	台数	金額	台数	金額	台数	金額
国内	5	43	19	148	5	41	16	129
北米(カナダ含む)	20(13)	173	121(70)	1,007	* 11(6)	99	119(70)	962
欧州	11	96	53	458	12	114	56	473
新興国等	91	253	397	1,169	101	269	472	1,208
合計	127	565	590	2,782	129	523	663	2,772

注1)二輪車、四輪バギー車(ATV)、多用途四輪車、パーソナルウォータークラフト(「ジェットスキー」)及びこれらの関連製品を含む。

注2)括弧内は二輪車分を示す。(内数)

当第1四半期実績

(前年同期比)

売上

インドネシア向けや欧州向け二輪車は増加したものの、米国向けやタイ向けが減少したことにより減収

営業利益

減収等により減益

2014年度見通し

(4月公表比)

売上・営業利益

期初から大きな変動はなく、見通しを据え置き

※ 北米の台数・金額が前年同期に比べ大幅に減少しているのは、米国販売子会社を経由した中南米への輸出が輸入規制等により一時的にストップしていることの影響が大きい

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度※
税前ROIC	3.4%	1.4%	9.2%	14.3%

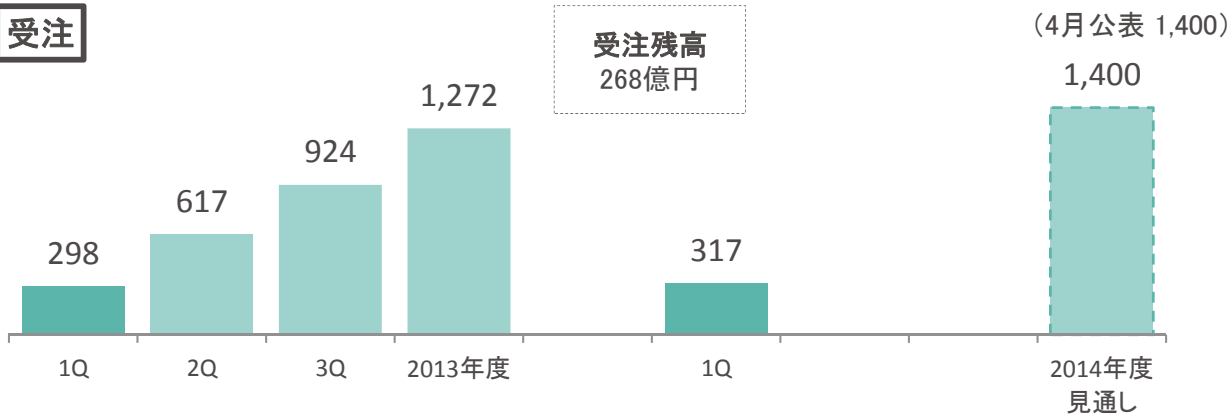
※ 2015年度目標は2013年4月25日公表「中計2013」数量目標(為替前提:95円/\$)

精密機械

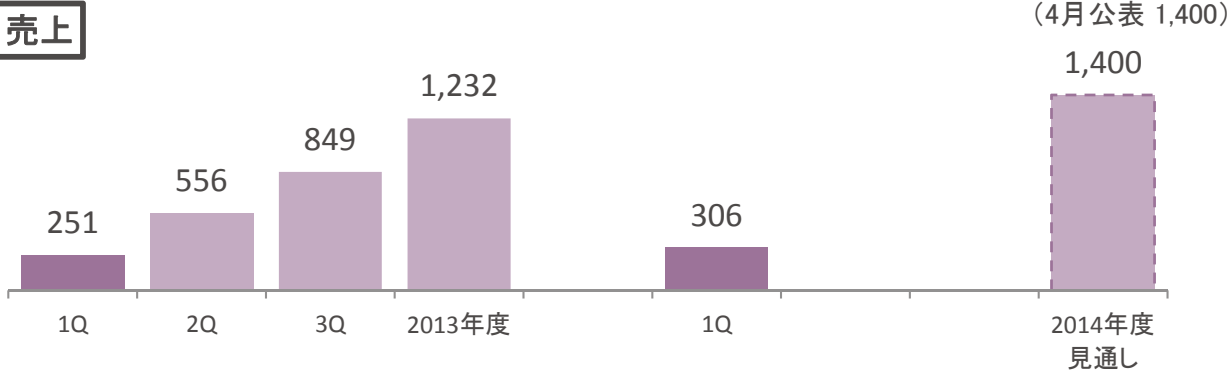
主要製品：油圧機器（ポンプ・モーター・バルブ）、陸用油圧装置、船用油圧装置、精密機械・機電製品、産業用ロボット

（億円/各期の数値は累計）

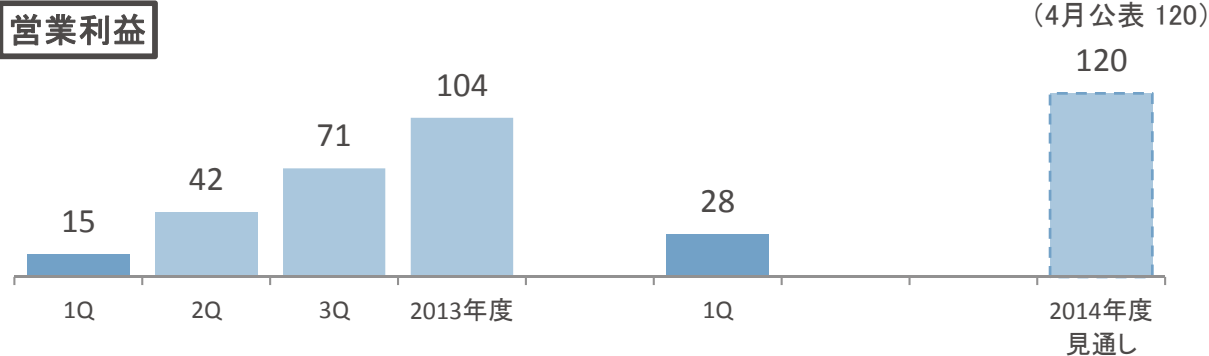
受注



売上



営業利益



当第1四半期実績

（前年同期比）

- 受注** 国内の建機市場向け油圧機器等の増加により増加
- 売上** 国内の建機市場向け油圧機器の増加、自動車産業向けロボットの増加等により増収
- 営業利益** 増収等により増益

2014年度見通し

（4月公表比）

- 受注・売上・営業利益** 期初から大きな変動はなく、見通しを据え置き

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度※
税前ROIC	14.0%	17.5%	16.8%	26.3%

※ 2015年度目標は2013年4月25日公表「中計2013」数量目標（為替前提：95円/\$）

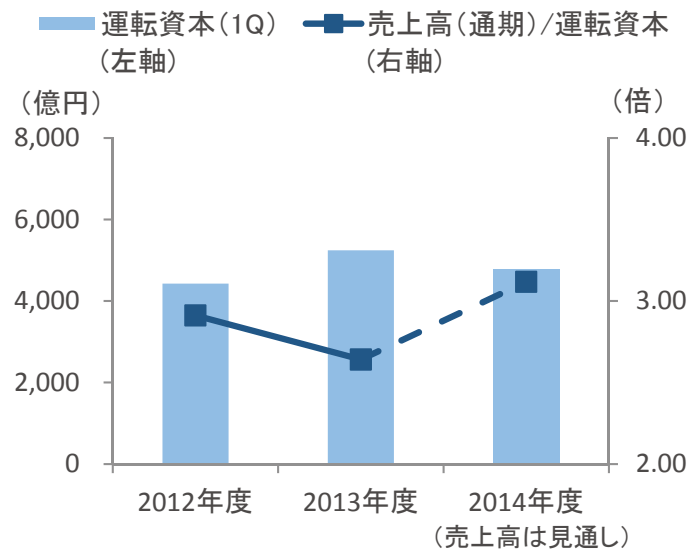
貸借対照表の概要

(億円)

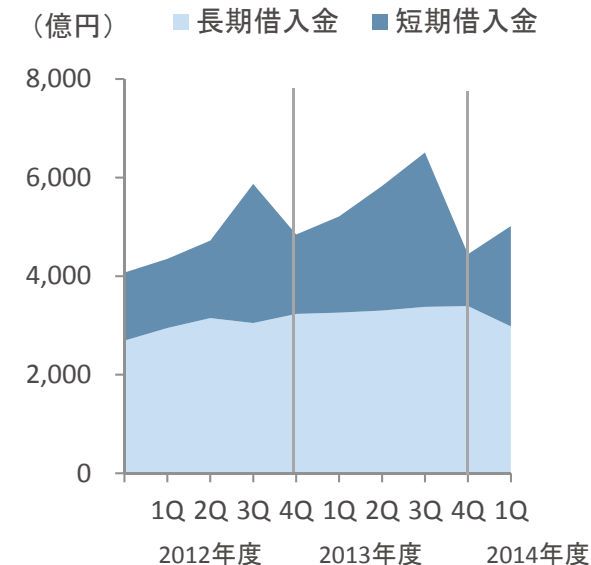
	2013年度 4Q末	2014年度 1Q末	増減
現預金	479	433	▲46
売掛債権	4,156	3,883	▲273
棚卸資産	4,580	4,781	+200
有形・無形固定資産	4,011	4,056	+44
その他資産	2,316	2,552	+236
資産計	15,544	15,706	+162
買掛債務	3,060	2,738	▲321
借入債務	4,446	5,017	+571
前受金	1,375	1,565	+189
その他負債	2,894	2,677	▲217
負債計	11,777	11,998	+221
株主資本	3,762	3,716	▲46
その他純資産	4	▲8	▲12
純資産計	3,766	3,707	▲59
負債・純資産計	15,544	15,706	+162

自己資本比率	23.3%	22.7%
NET D/Eレシオ	109.3%	128.3%

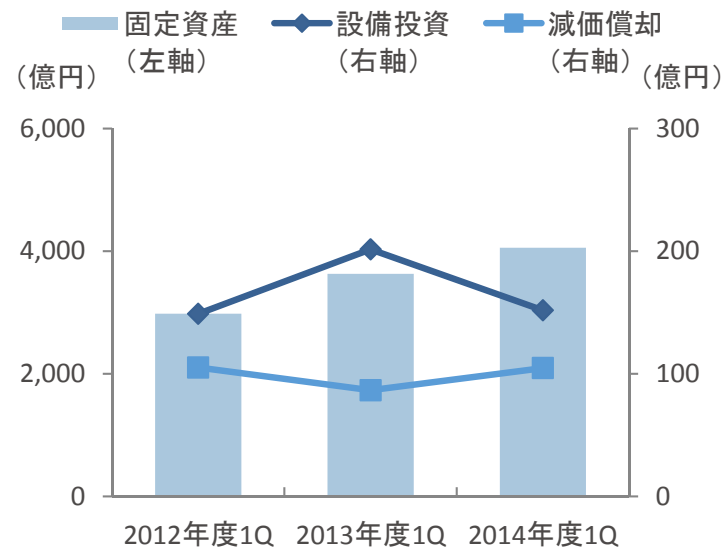
【運転資本の推移】



【有利子負債の推移】



【設備投資等の推移】



【貸借対照表の概況】

当四半期末の総資産は、受取手形および売掛金の減少があったものの、手持ち工事の進捗に伴う棚卸資産の増加や設備投資による有形固定資産の増加等により前期末に比べ増加。
負債は、支払手形および買掛金の減少はあったものの、コマーシャル・ペーパー等有利子負債の増加等により前期末に比べ増加。
純資産は、配当金の支払等により前期末に比べ減少。

キャッシュ・フローの概要

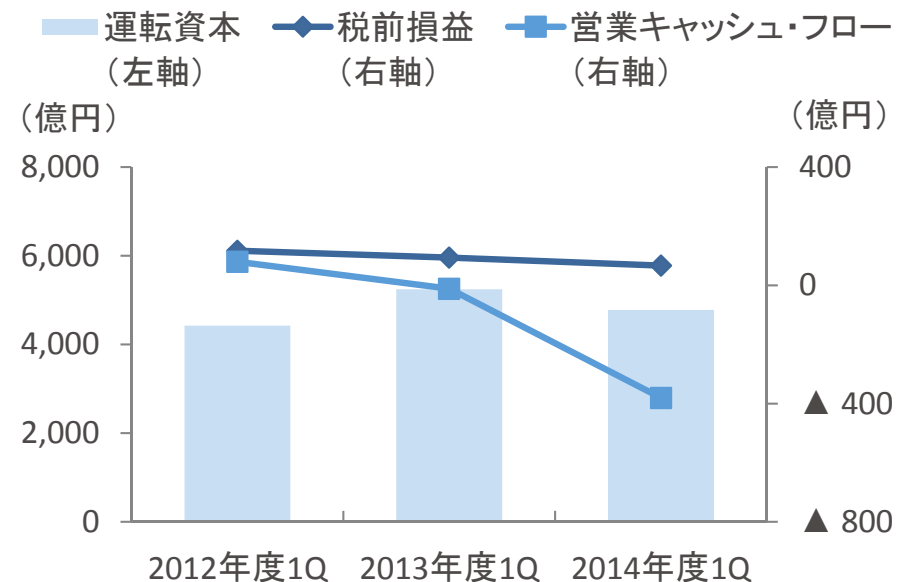
(億円)

	2013年度 1Q累計	2014年度 1Q累計	増減
営業キャッシュ・フロー	▲11	▲380	▲369
投資キャッシュ・フロー	▲183	▲117	+65
フリーキャッシュ・フロー	▲194	▲498	▲303
財務キャッシュ・フロー	201	499	+298

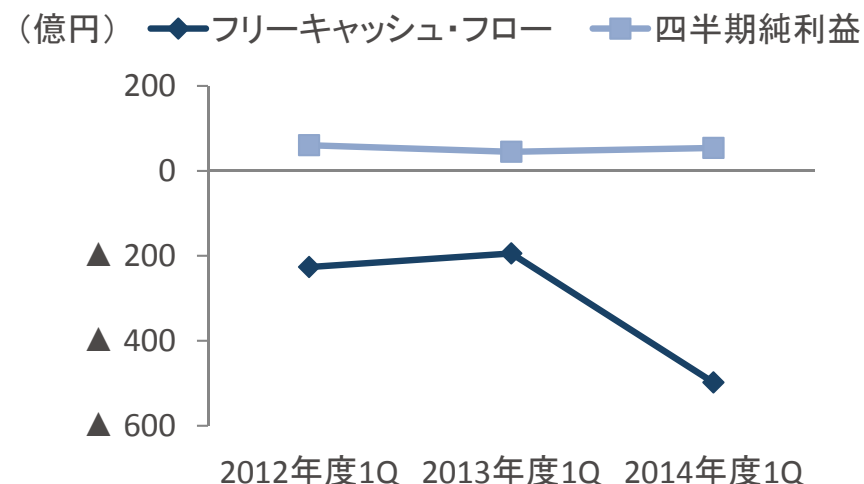
【キャッシュ・フローの概況(前年同期比)】

営業キャッシュ・フローは、売掛金の回収による資金流入額が減少したことや、前渡金の支払増加等により減少。
 投資キャッシュ・フローは、設備投資に係る支出の減少等により使用した資金が減少。
 この結果、フリーキャッシュ・フローは純減。

【営業キャッシュ・フロー等の推移】



【フリーキャッシュ・フローと四半期純利益の推移】



第2四半期(累計)業績見通し修正の概要

(億円)

	2014年度 2Q見通し		
	4月公表	今回公表	4月公表比
売上高	6,500	6,500	0
営業利益	220	220	0
経常利益	140	170	+30
当期純利益	85	125	+40

(参考) 2013年度 2Q
実績
5,950
268
227
130

修正の理由等

- ・ 経常利益については、持分法適用会社において比較的採算の良い案件が想定よりも上期に集中することにより持分法損益が好転することが見込まれるため、4月公表比30億円増の170億円に引き上げ
- ・ 当期純利益については、経常利益の好転および税効果の見直しを反映して、4月公表比40億円増の125億円に引き上げ

実績/前提 レート	ドル (¥/\$)	100	100
	ユーロ (¥/EUR)	135	135

97.77
127.73

連結受注高・売上高・利益見通し

(億円)

	2013年度 実績	2014年度見通し		増 減	
		4月公表	今回公表	前年度比	4月公表比
受注高	14,554	15,800	15,900	+1,346	+100
売上高	13,854	14,900	14,900	+1,046	0
営業利益	723	730	730	+7	0
経常利益	606	660	660	+54	0
当期純利益	386	410	425	+39	+15
税前ROIC	8.1%	8.6%	8.6%	+0.5%	0

修正の理由等

【受注高】

防衛省向け案件等の増加による航空宇宙での増加により見通しを引き上げ

【当期純利益】

税効果の見直しにより見通しを引き上げ

実績/前提 レート	ドル (¥/\$)	99.63	100	100
	ユーロ (¥/EUR)	134.56	135	135

注) 前提レートは見通し公表時の為替エクスポージャーに対して適用

(参考) 為替影響額

1円の変動による影響額 (億円)

	営業利益	経常利益
ドル	19.9 (22.2)	21.7 (23.3)
ユーロ	1.5 (2.1)	1.8 (2.0)

※括弧内は4月公表時

セグメント別通期業績見通し

(億円)

	受注高			売上高			営業利益		
	2013年度 実績	2014年度 見通し	2015年度 目標 ^{※1}	2013年度 実績	2014年度 見通し	2015年度 目標 ^{※1}	2013年度 実績	2014年度 見通し	2015年度 目標 ^{※1}
船舶海洋	1,178	1,500		808	850	1,350	▲20	0	60
車 両	1,330	1,800		1,479	1,350	1,800	75	60	130
航空宇宙	2,863	3,000		2,807	3,200	2,700	262	270	200
ガスタービン・機械	2,220	2,300		1,892	2,300	2,500	104	90	130
プラント・環境	1,039	1,300		1,038	1,200	1,400	63	60	80
モーターサイクル&エンジン	3,222	3,200		3,222	3,200	3,000	161	160	150
精密機械	1,272	1,400		1,232	1,400	1,900	104	120	220
そ の 他	1,426	1,400		1,372	1,400	1,350	44	40	
調 整 額 ^{※2}	-	-		-	-	-	▲72	▲70	▲70
合 計	14,554	15,900		13,854	14,900	16,000	723	730	900

※1 2015年度目標は2013年4月25日公表「中計2013」数量目標(為替前提:95円/\$)

※2 「調整額」には、本社部門で発生する費用で社内管理上各部門への配賦を行わない費用等を含む

研究開発費・設備投資・期末従業員数

※2014年4月25日公表値からの変更はありません。

(億円・人)

		2012年度 実績	2013年度 実績	2014年度 見通し
研究開発費		417	403	460
設備投資		786	877	910
減価償却費		483	378	470
	国内	25,222	25,531	26,200
	海外	8,788	9,089	8,900
期末従業員数		34,010	34,620	35,100

・ 設備投資額は有形・無形固定資産の新規計上額、減価償却費は有形・無形固定資産の減価償却実施額

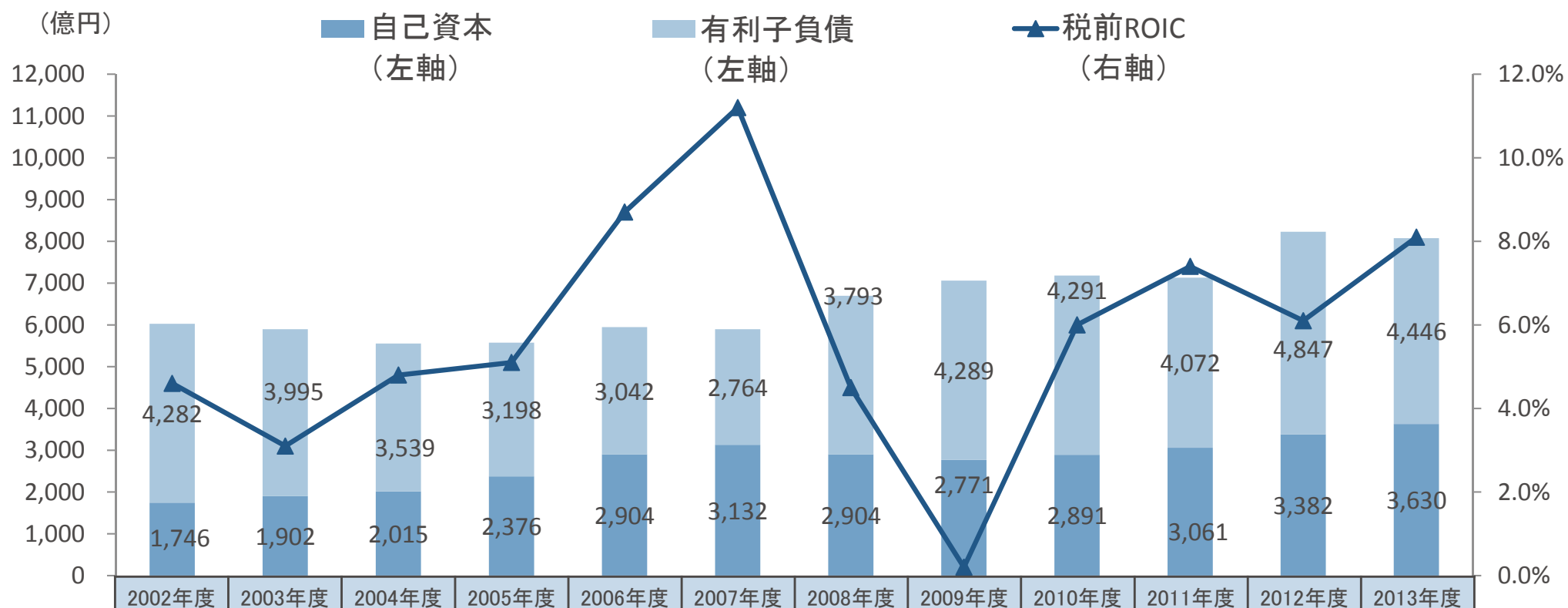
セグメント別税前ROIC等の推移

※2014年4月25日公表値からの変更はありません。

	税前ROIC				営業利益率				総資産回転率(倍)			
	((税引前利益+支払利息)/投下資本)				(営業利益/売上高)				(売上高/総資産)			
	2012 年度 実績	2013 年度 実績	2014 年度 見通し	2015 年度 目標※	2012 年度 実績	2013 年度 実績	2014 年度 見通し	2015 年度 目標※	2012 年度 実績	2013 年度 実績	2014 年度 見通し	2015 年度 目標※
船舶海洋	17.3%	3.4%	0.2%	10.0%	4.6%	▲2.4%	0.0%	4.4%	0.80	0.62	0.70	
車 両	4.6%	10.2%	7.9%	15.3%	1.7%	5.1%	4.4%	7.2%	0.79	0.92	1.00	
航空宇宙	15.9%	19.6%	17.7%	12.7%	6.1%	9.3%	8.4%	7.4%	0.76	0.80	0.90	
ガスタービン・ 機械	5.3%	4.6%	5.1%	7.5%	3.3%	5.5%	3.7%	5.2%	0.82	0.67	0.80	
プラント・環境	21.2%	14.9%	13.5%	15.0%	8.4%	6.0%	5.0%	5.7%	1.00	0.94	1.10	
モーターサイクル& エンジン	3.4%	1.4%	9.2%	14.3%	0.9%	4.9%	5.0%	5.0%	0.92	1.27	1.40	
精密機械	14.0%	17.5%	16.8%	26.3%	6.4%	8.4%	8.5%	11.6%	1.13	0.98	1.10	
合 計	6.1%	8.1%	8.6%	11.0%	3.2%	5.2%	4.9%	5.6%	0.87	0.89	0.90	

※ 2015年度目標は2013年4月25日公表「中計2013」数量目標(為替前提:95円/\$)

ヒストリカル・データ



税前ROIC	4.6%	3.1%	4.8%	5.1%	8.7%	11.2%	4.5%	0.2%	6.0%	7.4%	6.1%	8.1%
投下資本	6,027	5,896	5,553	5,573	5,946	5,896	6,697	7,059	7,182	7,132	8,228	8,076
売上高	12,395	11,602	12,415	13,224	14,386	15,010	13,385	11,734	12,269	13,037	12,888	13,854
営業利益	313	222	247	417	691	769	287	▲13	426	574	420	723
経常利益	162	121	210	308	490	639	387	142	491	636	393	606
当期純利益	130	63	114	164	297	351	117	▲108	259	233	308	386

為替レート 円/\$	120	113	108	112	117	115	101	93	86	79	82	99
------------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	----	----	----	----

Kawasaki ROIC経営について

Kawasaki ROIC経営の目的・ポイントを改めてご説明するとともに、今般、新たに設定したROIC区分についてお知らせします。

先ず、当社のKawasaki ROIC経営は、資本効率と将来の成長戦略による**企業価値の向上**を最大の目的としており、その実現に向けた5つのActionにより構成されています。

Action 1	BU単位のコア・コンピタンスの強化を通じた 成長戦略 の立案・実施
Action 2	ROICを中心とした あるべき財務指標 の設定と具体的な達成シナリオの策定
Action 3	総合経営 を活かした シナジー効果 の追求による 新たな価値創造
Action 4	Sub-BUや製品単位までブレイクダウンした 縮小・撤退戦略 の明確化
Action 5	収益性・安定性・成長性 を重視した 事業ポートフォリオ の構築

セグメントにおけるBU設定の考え方

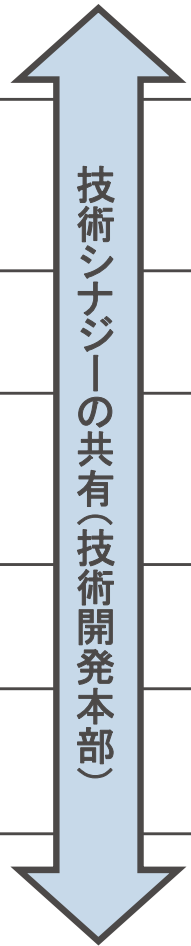
当社のマネジメント単位はセグメントです。
Kawasaki ROIC経営で採用したBUは、セグメントにおける事業戦略単位であるため非公開としていますが、BU設定の考え方は以下のとおりです。

セグメント	BU単位	事業戦略
船舶海洋	セグメント単位	国内工場をマザーファクトリーとするグローバルな事業体制における工場毎の事業戦略 (工場単位のSub-BUを設定)
車両	市場および製品単位	国や地域によって異なるレギュレーション、鉄道事情に応じた事業戦略
航空宇宙	製品単位	市場の特徴やライフサイクル等の製品特性に応じた事業戦略
ガスタービン・機械	用途単位	セグメント内で回転機、レシプロエンジン等の技術を共有しつつ、推進機、エネルギー等の用途別の事業戦略
プラント・環境	製品単位	セグメント内でエンジニアリング人財を共有しつつ、独自技術や要素技術の異なる製品別の事業戦略
モーターサイクル & エンジン	市場単位	地域によって異なる顧客嗜好に応じた事業戦略 (二輪車、四輪等の製品単位のSub-BUを設定)
精密機械	市場および製品単位	既存分野での高シェアを背景に、要素技術力・システム化技術力をさらに強化して、新規分野を開拓する事業戦略

コア・コンピタンスの考え方

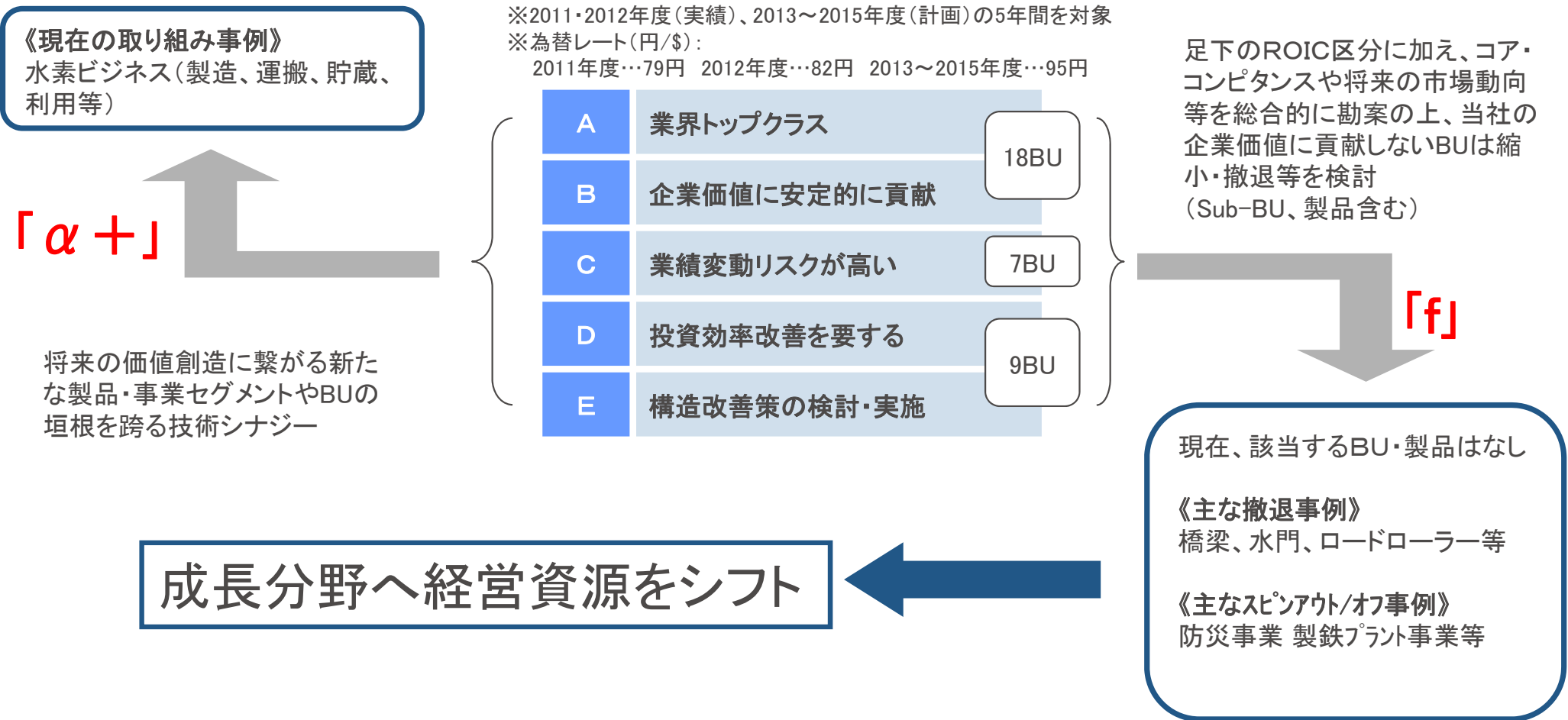
当社は、BUが蓄積してきた競争手段のうち、最も効果的なものをコア・コンピタンスと定義しています。コア・コンピタンスは、製品・技術・価格競争力等に加え、多様な知見や組織力により構成されており、BU間を超えたシナジー効果を追求できる点に総合経営の強みがあります。以下はコア・コンピタンスの一例です。

セグメント	コア・コンピタンスの一例
船舶海洋	<ul style="list-style-type: none"> ・ ガスキャリア・艦艇等で培われた高付加価値船の設計・建造技術 ・ 国内工場をマザーファクトリーとするグローバル生産体制
車両	<ul style="list-style-type: none"> ・ 世界で最もレギュレーションが厳しいと言われる北米での契約履行能力 ・ 総合経営のシナジー力(炭素繊維対応等) ・ 20年以上の車輛納入実績のあるアジア
航空宇宙	<ul style="list-style-type: none"> ・ 豊富な国産開発経験を通じて獲得した高度な技術力及びシステムインテグレーター能力 ・ 新興国による容易な追従を許さない生産技術力及び生産設備
ガスタービン・機械	<ul style="list-style-type: none"> ・ 民間航空機： 高いレベルの特殊工程、品質、厳しい納期への対応力 ・ エネルギー・環境： 世界最高効率のガスエンジンやガスタービン、蒸気タービン等各種製品の複合化・統合化によるソリューション提案力
プラント・環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ BU間におけるエンジニアリング人財シフトによる安定経営 ・ 自社工場による“ものづくり”を活用できるエンジニアリング力
モーターサイクル & エンジン	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「Ninja」、「Z」、「KX」およびレース活動などで認知された高性能を象徴するブランド ・ グローバルなサプライチェーン体制(調達・生産) ・ 過給機エンジンの自社開発能力
精密機械	<ul style="list-style-type: none"> ・ 精密機械： ショベル用油圧機器における世界先端技術の蓄積・システム化能力とブランド力 ・ ロボット： 顧客の多様な要求に応える適用開発力・システム提案力



新たなROIC区分の設定

当社は、従来よりBUまたは製品単位での縮小・撤退・売却に継続的に取り組んできました。その結果、2013年度のBU評価において縮小・撤退の対象となるBU・製品はありませんでしたが、今後とも縮小・撤退・売却に取り組む姿勢を明確にするため、ROIC区分に新たに「f」(スモールエフ)を設定します。また、将来の価値創造に繋がる製品・事業の発掘に向け、「α+」(アルファプラス)を設定します。



めざすべき事業ポートフォリオのイメージ

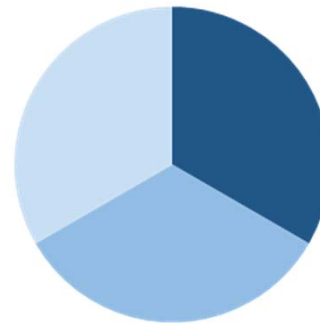
当社は**収益性・安定性・成長性**を同時に追求する戦略を重視しており、めざすべき事業ポートフォリオを様々な観点から検討しています。

収益性

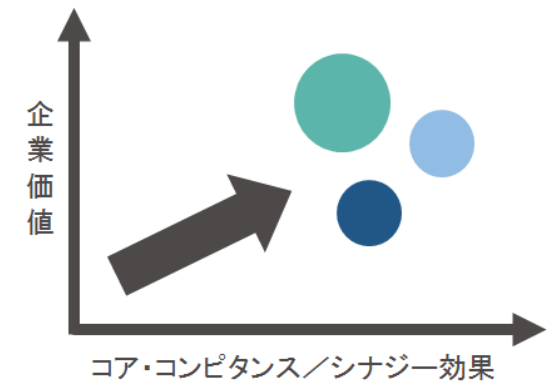
$$\text{ROIC} = \frac{\text{EBIT}}{\text{投下資本}}$$

営業CF > 投資CF

安定性



成長性



《ROICの再徹底》

- ・資本効率の重視
- ・利益の絶対額も重視
- ・BUの“選択と集中”を推進
- ・成長投資を行ないつつFCFを安定的に確保

《バランスの追求》

- ・7つのセグメント
- ・先進国・新興国・国内
- ・官公需、民需、受注、量産
- ・輸送機器、エネルギー・環境、産業機器

《企業価値の向上》

- ・コア・コンピタンスの強化
- ・シナジー効果の追求
- ・M&Aの追求

Kawasaki ROIC経営については、今後もその進捗に応じて適宜ご報告を行ってまいります。

世界の人々の豊かな生活と地球環境の未来に貢献する “Global Kawasaki”

ご注意

本資料のうち、業務見通し等に記載されている将来の数値は、現時点で把握可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、これらの業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことはお控え下さるようお願い致します。実際の業績は、外部環境及び内部環境の変化によるさまざまな重要な要素により、これらの見通しとは大きく異なる結果となり得ることを御承知おき下さい。実際の業績に影響を与える重要な要素には、当社の事業領域をとりまく経済情勢、対米ドルをはじめとする円の為替レート、税制や諸制度などがあります。